

# 八清親和会 自治会役員の一とり言

令和2年6月29日

No19

八清親和会 副会長

吉田祐治

## 新型コロナウイルス対応、変わる自治会！

### 新型コロナ禍を契機にして、自治会運営・活動方法を見直し、 変化に対応できる柔軟性のある自治会へ！

令和2年度がスタートし3ヶ月になるが、新型コロナウイルス感染症拡大の、収束見通しが今だ立たず、今年1年は、自治会活動も自粛の年になりそうだ！

しかし自治会は、この1年は活動の場がない、やることがない、などと言っているようではだめだ！

いまだからこそ、コロナ禍を契機にして、自治会の運営・活動方法をもう一度見直し、今までの人が集まり、対面接触中心の活動から、外出や対面接触自粛の環境に寄り添った活動に切り替え、今までできなかったことを行ったり、現在の運営・活動を再チェックし、今後の自治会目標を考えたりする時間ができたと、前向きに考えることが必要ではないか。

即ち“自治会にとって、いま必要なことは、変化に対応できる柔軟性”である。

八清親和会に於いても、今年は、イベント・行事・活動等の自粛により、これらを中心とした年間予定はほとんど中止となった。

また、昭島のほとんどの自治会に於いても、このような活動が中心であるため、自治会役員は、会員との交流・親睦・ふれあいを、今年はどうのようにしたら良いか頭を悩ませているのではないだろうか！

八清親和会も、今年は“変化に対応できる柔軟性”を念頭に、4月の書面総会準備時点から、この対応方法として、自治会活動を従来の“動”主体にした活動から“静”を主体にした活動へシフトした。

では、八清親和会がシフトした“静”の活動とは何か！

先ず、筆者の持論である、自治会は“動”と“静”の『車の両輪』のような活動で成り立っている。この両輪が確り回ってれば、自治会は衰退するどころか、活発になり、元気になり楽しい、魅力ある自治会になる。

この、“動”の活動とは、イベントや行事・会合等の人が集まる活動のことであり、“静”の活動とは、ペーパーやIT活用・デジタル化等による情報の伝達・提供の広報活動である。

今年は、イベントや行事・会合が自粛だから「やることがない」と言っているようでは、会員から見れば、会長・役員顔が見えない、即ち会員への発信が無くなるため、何をしているか分からない、ということになる。

また、イベント・行事・活動の中止により、会員との交流・親睦・ふれあい、対面接触が無くなり、ますます会長・役員と、会員との距離が遠くなるということである。

しかし、このコロナ禍を契機にして、自治会には、会長・役員顔が見え、会員との距離を縮めるための、やるべきことは沢山ある。

そして、この「ピンチをチャンス」と捉え、今年は、ここに視点を移し、重点的に活動する“変化への柔軟性”が必要である

八清親和会がシフトした“静”の活動とは、

I] 広義の「広報活動」、情報の伝達・提供による会員との『コミュニケーション』『距離を縮める

(情報伝達・提供のスピード)』『自治会活動情報の共有』活動である。

1. 現在、月1～2回のペースで発行している八清親和会会報発行の回数を年間発行を24回以上(2回/月)に増やし、会員との距離をさらに縮め、会員が知りたい・会員に必要な情報をタイムリーに、スピーディに伝達・提供する。  
また、今年は“動”の行事・活動が減った分、もう一度、八清住宅地域や八清親和会を見つめ直す内容ものをシリーズで記載する。  
例えば“わが街・わが自治会の今・昔”“わが街・わが自治会の小さな発見”である。
2. 自治会活動ポスター作成、八清親和会活動協力団体の会員募集ポスターの作成協力・回覧・掲示の支援等である。
3. ブログ「八清親和会紹介」のトピックス活用による会員への最新情報伝達・提供 年間平均200件を維持し、会員には、会員の知りたい、新鮮で正確な多彩な情報を恒常的に、スピーディに伝達・提供する。一般閲覧者には、自治会「八清親和会」を紹介・知っていただくためのPRに活用する。
4. 会報・ブログを含め、過去の何の変哲もない「読む」文書スタイルの情報伝達・提供から、デジタルを駆使したカラー写真・グラフ・図を中心にした、誰にも分かる「見る」「見せる」情報伝達・提供へのさらなる充実を図る。
5. 他自治会との差別化を図った、特色のある、魅力ある自治会を目指す情報伝達・提供を行う。

II]「IT・デジタル化」による情報伝達・提供の促進と令和2年以降の重点取り組み準備である。

1. 今や自治会に於いても、行事・集会の実施結果、来場・参加者・出席者等の数値や、自治会の問題・課題解決の取り組み目標の結果については、過去のようなあいまいな、抽象的な表現では満足せず、また興味を示さず、関心も持たれない。  
だから、行事・集会へ参加せず、来場・参加者・出席者が増えなかったのである。したがって、参加・出席する人は、いつも限られた同じ人になるのである。  
これを解決するため、八清親和会は「会員の声を聞き、声を拾い」、6年間の改革・改善を行う傍ら、ITの活用、デジタル化で自治会行事・活動をデータで蓄積し、会員へ定量的、定性的、可視化で提供するとともに、分析や過去との比較、現在の進み具合、今後の予測等“八清親和会が如何に変わり、どのように変わってきたか、また、どのように進化していくのか”デジタル写真、数値、図表で正確に示せる、分かる情報伝達・提供を行ってきたが、今回コロナ禍を契機に、もう一度見つめ直し、さらなる充実に取り組む。
2. IT(情報技術)活用による会員への情報伝達・提供の拡大  
多くの自治会は、運営や考え方が旧態依然で、PCなどのIT活用の取り込みが遅れている。  
また、役員についてもデジタル機器になれていない高齢者が多く、このため相変わらず何の変哲もない文書スタイルの情報発信、ペーパー中心の情報伝達・提供が主流である。  
また、今の「若い人はペーパーの情報を提供してもほとんど見ない」実状を確り認識することも必要がある。  
今回のコロナ禍により、文書の配布・回覧が、対面接触が限定され対応できなくなった自治会も多いと聞く。  
しかし、視野を広げ都道府県、区市町村の自治会・町会を調べると、すでにコロナ禍を「ピンチをチャンス」に捉え、ITを活用して活動している自治会・町会がある。  
例えば、会員に電子メールを登録してもらい、「メールの自治会・町会だより」を配信したり、

また、より進んだ「ウィブ会議」を行っている自治会もある。

さらに、このIT活用を、“役員の担い手不足解消”や“加入促進活動”に繋げて、自治会・町会の再生の契機にしている自治会・町会もある。

八清親和会も、IT活用による情報伝達・提供を、

- 1, 子ども会会員（八清親和会員でもある）への情報伝達・提供は、すでに電子メール配信サービスを行っている。
- 2, 若い世代・現職世代については、グーグル・ヤフーなどの検索エンジンより入れる、ブログの「八清親和会紹介」を活用した自治会情報伝達・提供を行っている。

しかし、全会員世帯数から見た場合、まだまだIT活用による送信者、閲覧者は少ないと言わざるを得ない、これを如何にして拡大していくかが、今年の検討課題である。

また、IT活用やデジタル化による広報活動が、昭島市自治会の中でも進んでいるとは言え、都道府県の区市町村自治会・町会の成功事例と比較すると、まだまだ、小学生と大人ほどの開きがあり、脆弱と言わざるを得ない。

今年は、コロナ禍により行事・活動が減った分、これらの全国の自治会・町会の成功事例をできるだけ集め、学び、如何に取り入れるか検討・考える時間ができたと、前向きに考え会員のための、さらなる上の自治会を目指す活動を行う。

以上